



TITLE:

シェーカーズ

AUTHOR(S):

穂積, 文雄

CITATION:

穂積, 文雄. シェーカーズ. 経済論叢 1964, 93(2): 106-128

ISSUE DATE:

1964-02

URL:

<https://doi.org/10.14989/132988>

RIGHT:

經濟論叢

第九十三卷 第二號

經濟学史の本質と類型……………	出口 勇 藏	1
シェーカーズ……………	穂 積 文 雄	26
ハロッド不安定性原理について……………	白 杉 剛	49
生産点における 『合同機械工組合』の機能(一)……………	熊 沢 誠	60

昭和三十九年二月

京都大學經濟學會

シェーカーズ

穂 積 文 雄

八

わたくしは、これまで、シェーカーズのなりたちをうかがってきた。そして、ルシィ・ライトが主宰する時代に入り、そこで、シェーカーズの発展史の上で、二つの大きなできごとがおきたことを、指摘しておいた。一つは、シェーカーズの秩序・組織の確立であり、いま一つはシェーカーズの西部・南部への進出・拡大である。¹⁾ おきた順序からいえば、秩序・組織の確立の方がさきである。だから、まづ、それから、うかがうべきである。しかし、まえにも述べたように、²⁾ その秩序・組織については、いづれ、あらためて、うかがうはづである。そこで、それは、その折りにゆづるを適當とかんがえる。したがって、いま、ここでは、その西・南部への進出・拡大について、うかがうであらう。

それでは、それは、いかにあつたであらうか

おもしろいことに、シェーカーズの西部進出は、いわゆる宗教復興の波(the wave of religious revival movement)に乗ったものである。そのことは、さきに引いた、年代記および、ウェッバー氏の記述によっても、うかがえるところのごとくである。たしかに、シェーカーズの西部進出は、宗教復興の波に乗ったものである。それに、

ちがいは、ない。しかし、宗教復興の波に乗るということは、別にこの場合にかぎったことではない。それはことあたらしいことではない。シェーカーズの源流とみられるフレンチプロヘッツの発生の場合がそうである。そのことは、わたくしたちのすでにみたところである。いな、シェーカーズの出現そのものが、すでに、そうである。そのことは、われわれの、すでにしろしたところである。そして、その東部地方での信者獲得が、また、そうである。そのことも、また、わたくしの、さきに、あきらかにしたところである。かくて、それは、ひとり、シェーカーズの西部進出の場合だけのことではない。それはいうまでもないところである。それは、いなみがたい事実である。しかしながら、この場合には、それが、もつとも顯著に、あらわれている。それも、また、いなみがたい事実である。したがって、それは、この場合、その典型的なものとみることができよう。それだけに、その事情をあきらかにすることは無意味ではない。そうかんがえることが、できよう。すくなくとも、わたくしは、そうかんがえる。さらに、それが、そのように顯著にあらわれ、典型的にあらわれているということは、それがシェーカーズの西部進出の特徴であることを、いなみがたくするであろう。かくて、シェーカーズの西部進出をうかがおうとするわたくしのペンは、まず、その宗教復興にむけられなければならないことになる。

それでは、それは、いかにあつたか。

それをあきらかにするためには、さかのぼって、そもそも、宗教復興とはいかなるものであるかをきわめなければならぬであらう。では、宗教復興とはいかなるものであるか。

宗教復興とは、もと、一つの教会、一つのコミュニティ、または、一つの地域における宗教的信仰および奉仕サービスへの熱中の維新リバイバルの謂である。それは、宗教心の沈滞・停迷の時期のあとにおこるを普通とし、強烈な熱情の奔

騰を特徴とする。そして、この熱情の奔騰は急速に伝播する。だれきつたもの、どうでもよいといったような信徒^{ペリパーズ}が、覚醒して、新鮮な献身^{フレッシュ・デボーション}をしたり、またつみふかいひとびとが（ときとして、非常に多勢で）よびさまされ、宗教的な信念とみちびきの下に、よりよい思考・生活へかりたてられる。そういう現象である。それは、キリスト教においてよくいわれる。ことばは、わりに、あたらしい。十八世紀にはじまる。しかし、ことがらは、きわめてふるい。教会の歴史とともにふるい。その初期からみられる。そのことは、聖書の中のもの^{メソフィス・バプティスト}がたりが証している。中世をへて近世にいたるキリスト教の発展史は、うつりかわる事情により、起伏^{メソフィス・バプティスト}転変をしめす。しかし、そこ

には、情熱の奔騰が、ときどき、おこっている。十四世紀から十六世紀にわたるプロテスタント・ムーブメントの発展は、ウイルクリフ、フス、ルッター、カルビンらのような指導者の強烈な推進力の下における一聯のリバイバル・ムーブメントとみることができる。しかしながら、ヨーロッパにおける、いわゆる、リバイバルズは、一七三七年、イングランドにおいて、ジョンおよびチャールズ・ウエスリー（John and Charles Wesley）とジョージ・ホワイトフィールド（George Whitefield）の下における覚醒^{アウエックシング}にはじまる。かれらの指揮の下に、たびたびの労働者や地方の労働者、牧師の団体が、メソジスト・エバンジェリズムの精神を、おどろくべき速度で、グレートブリテンから、アイルランド、ウェールズ、さらに、海外へ弘布した。このヨーロッパにおけるムーブメントと、ほとんど、ときをおなじゅうして、一大覚醒が、アメリカに発生した。一八世紀末から一九世紀初頭にかけて、南部および西部のあたらしい諸州が宗教的昂奮の波にみまわれた。この宗教的昂奮は感情の昂奮^{エキサイティング}と肉体による表^{エクスプレッション}現をともなうものであった。そして、このムーブメントは、一七九七年ジェームス・マックグリーディー

（James McGreedy）の説教の下に、ケンタッキーにおいて、はじまった。それは野天の下にひらかれたミーチン

グからキャンプ・ミーチングへと発展した。^{b)}

それでは、それは、どう発展したか。

例の年代記は、こうしるしている。

一八〇一年、異常な神のわざが、ケンタッキー、および、その周辺にはじまり、あかしが、この西部にあらわれるための道をひらいた。かくて、一八〇五年正月元旦、三人の使者^{メッセンジャー}、すなわちジョン・ミーチャム (John Meacham)、ベンジャミン・S・ヤングス (Benjamin S. Youngs)、および、イサカル・ベート (Issachar Bates) が、聖霊のみちびきとコンミニチーの総意の下に、えらばれて、ニュー・レバノンの教会よりケンタッキーおよび、その周辺の、リバイバルのひとつとどころえ、つかわされた。かれらは、多くのリバイバルの第一級の指導者たちによって、丁重にむかえられ、その他のひとたちによって、白眼でみられた。

シェーカーズのおしえはオハイオ河の南北にひろまった。そのあかしは、その地方の何百人ものところの中に、かたく、うえつけられた。そして、そのおしえは、いま、なお、隆盛をほしいまみにしている。

そして年代記は、さらに附記している。

あかしが上記の地方にあらわれてより、反対・質疑を通じて、人心は、非常に沸騰した。そして、多くのひととは、びっくりした。それは、かれらが、人智にとつて、かくも不充分とおもわれる手段^{手段}によつて、かくも偉大な結果^{結果}がもたらされたのを、みただからである。すなわち、かくまで多くの、名声のたかいひとと、高潔なひとと、それに、篤信なひととまでが、名譽・富・現世の快樂を、これまでの教理の上になりたつ後生のねがい (hope of salvation) もろとも、なげうって、いやしい女のあかしの上にうちたてられたといわれる信仰をいだくひとと

と、まじわりをむすぶのを、みたからである。

そして、つぎのごとくむすぶ。

しかしながら、まことにつみをしり、いかにしてもすくいを得んとするひとびとは、神の免罪の方法の前に、たじろがなかった。よきオリブのやさしい枝のごとく、かれらの熱烈ないのりとなみだによって、邪悪な性質の圧力の下にあって、救済の夏 (summer of redemption) が、とぐちまで、ちかすいてくる (nigh, even at the door) と声明するひとは、この時代には、ずいぶん、いたのである。

しかしながら、これでは、あまりに抽象的である。すくなくとも、わたくしには、そう、おもわれる。わたくしは、それでは、満足できない。そのことは、さきに、シェーカーズの東部地方への巡錫の行脚の場合と、おなじである。もとも、このたびの場合は、年代記には、つぎのごとき記述がみられる。

このケンタッキー、および、その附近における異常なわざ (Work) の概略は、リチャード・マクネマル (Richard M'Nemar) が一八〇七年にあらわした「ケンタッキー復興」 (Kentucky Revival) というパンフレットにおいてみることができ。それに、あかしの滲透進行と、いつわりの教師たちからうけた反響がそえられている。

しかし、そのパンフレットは、いま、わたくしの手許にはない。だから、わたくしは、この点、他の資料によらねばならない。さきの東部地方の巡錫に関する場合には、わたくしは、さいわいにして、ウェッバー氏の恩恵に浴することができた。しかし、このたびは、そうはいかない。というのは、ウェッバー氏は、それについては、ただ、つぎのごとくいつているに、すぎない、からである。

布教師^{プロフェッサー}たちの何名かが、ケンタッキーにでかけた。そこは、大復興^(the Great revival)の最中であつた。シェーカーズは、キャンプ・ミーチングの千年王國の熱狂的な雰囲気^{雰囲気}にたじろぐことはなかつた。その、キャンプ・ミーチングには、タバコを吐きちらかす開拓者^{開拓者}とその妻子たちが、おしかけて、恍惚となり、躍動^{躍動}けいれんし、妖鬼と化し、頭をうちつづけるさ^さわぎを現出したが、それらは、みな、受験者^{受験者}たちの中に聖靈のいますことのあらわれである、と、もったいぶって、いわれたものである。

しかしながら、わたくしにとつて、よろこばしいことには、ここに、ねがつたり・かなつたりの資料があることである。ついでながら、その資料には、わたくしにとつて、こころたのしいおもいでが、ひめられている。こころたのしいおもいで、というのは、こうである。わたくしは、一九五九年の四月下旬、レキシントン大学でひらかれたある国際学会にまねかれた。レキシントン郊外のプレザントヒル^(Pleasant Hill)にはシェーカーズの遺蹟がある。わたくしは、レキシントン滞在中の一日、そこをおとづれた。それはいうまでもないところである。大学の・ある・プロフェッサーが、わたくしのための、東道の主人。レキシントン郊外のひろびろした原野をドライブした。その爽快なきもちは、いまに、わすれがたいところである。だが、それにおとらず、うれしかったことは、そのおり、その教授から、そのすこしまえに・シェーカーズのことをかいた本が出たことを、きいたことであつた。わたくしは、その本を、大学のライブラリーから借り出してもらつた。そして、さつそく、それをひもといた。そして、ときのためのもわすれて、夜をふかした。ここに資料というのは、すなわち、その本である。題して、「Believers」という。著者は閨秀作家である。ジャニス・ホルト・ジャイルス^(Janice Holt Giles)というのが、その名である。同女史には同地方の開拓者を取りあつた一連の歴史小説がある。そして、本書は、その中の一つである。そのことは、同書のカバーの記載であきらかである。もとより、それは一つの小説である。しかし、それは、よくしら

べた小説である。そのことは著者が序文につぎのごとくいつているによりてもうかがうことができるであらう。

中心人物は、みな、創作である。しかし、布教師のブラザー・ベンジャミン (Brother Benjamin)・ブラザー・ランキン (Brother Rankin) シスター・モリー (Sister Molly) は実在の人物である。いろいろの新聞・日記類・伝記、および、現地の踏査から、わたくしは、当時の日常生活をそのまま再現しようところをみた。プロットにおりこまれたいろいろのできごとは、たいてい、実際あったことにもとづいている。それらのできごとは、すべてがサウス・ユニオンでおこったわけではない。しかしシェーカー・ビレッジ (Shaker Village) の、あるところで、あるとき、あるひとに、実際におこったことである。¹⁰⁾

そして、読者が、もし、すぐあとで引用するはずの、シェーカーズのミッショナリーズの登場の場面を、さきに引用した、¹¹⁾年代記のシェーカーズのミッショナリーズを派遣した記録と対照せられるならば、そこに、著者の右にいつていることの一証左をみいだすことができるであらう。さらに、この書には、ブラザー・ベジャミンのことを述べている。そして、そこで、「われわれがマザー・アンのあかしとよんでいる「キリスト再来のあかし」」(The Testimony of Christ's Second Appearing) という本を執筆したのはかれである、¹²⁾といっている。そして、事実、同書の序文の執筆者の名の中に、かれのそれをみいだすことができる。¹³⁾そうみてくると、著者の言のひとをあざむかざるを知るの感をふかくするものは、ひとり、わたくしのみには、かぎらないことになるであらう。

はなしが、すこし、わきみちに、それすぎたようである。ほんすじにたちかえることにしよう。

そこで、わたくしは、この小説によって、シェーカーズの西部進出のようをうかがおうとするのである。それでは、それは、いかに、あったか。かの女は、序文のなかに、こうしている。

一八〇〇年ころ、南ケンタッキーのガスパー河 (The Gasper River) のほとりに、宗教の火がともされた。そ

れは、はじめは、一つのささやかな火であつた。しかしながら、テネッシー (Tennessee) から来た二人の兄弟の強烈な情熱にあおられて、もえあがつた。そして、燎原の火のごとく、たちまちのうちに、テネッシー全州を一なめにした。さらに、勢のおよぶところ、南部ののこりの地域の大半にひろがった。世に「大復興」(The Great Revival)とよばれるものがこれである。

このような説教、このような情熱、このような宗教における熱中 (Zeal in religion) は、かつてみないところのものであつた。ひとびとは、それにとりつかれて、夢中になつた。そして、からだをけいれんさせ、ふるわせた。回教の托鉢僧 (dervishes) のように、おどり、わけのわからぬことを・しゃべり、泣き、わめいた。けれども、のように、え、はいまわり、のたうちまわつた。そして、恍惚無我の状態におちいつた。その関心は非常に大きかつた。その伝播は非常に早かつた。そのため、二年のうちに、これらのリバイバルをあげようためにあつまつた群衆の数は二〇、〇〇〇・一五、〇〇〇・二〇、〇〇〇におよんだ。それは既成宗派 (established churches) 内に分裂をひきおこし、いくたのあたらしい宗派をうみ出した。そして、それは、そのつめあとを、いま、なお、ケンタッキー、テネッシー両州の山間に、のこしている……¹⁴⁾

ほとんど、これと、おなじことを、作中の人物の口からも、きくことが、できる。すなわち、一八〇〇年の春のころ、牧師のランキン (John Rankin) が、つぎのようにかたつてゐる。

二人の兄弟がふたつ、まにに (two summers ago)、テネッシーからやつてきて、聖礼典のあつまり (the sacramental meeting) で説教をしました。あのような説教は、わたしは、これまで、みたことも、きいたことも、ありません。あつまつたひとびとの反応には、わたくし、びっくりしました。かれらは、感動のあまり、ふしぎなことをくちばしり、おかしなふぶりをしまし

た。そして、例の二人は、非常な確信をもち、非常に力をこめて、説教しました。そのため、その説教がすむと、へとへとになつていました。わたくしはいえは、（と、かれは、かたりつづけた。）わたくしは、そのおり、わたくしにとっては、もっとも奇異な感情に、みまわれました（「I myself had a visitation most strange to me at the time」）。わたくしは、いつものくせで、わたくしの説教を、ねんをいれて、準備しておいたのです。しかし、わたくしの番がきて、立つて説教する段になると、わたくしの口をついて出ることは、わたくしが、かんがえたものでもなければ、わたくしが、つくったものでもありませんでした。わたくしは、わたくしがなにをいったかを、ほとんど、しりませんでした。そのよってきたところが、神よりであることは、あまりにも、あきらかなところです。わたくしは、ただ単に、神の口（the mouthpiece of the Lord）になつたにすぎません。神（He）が、わたくしを通じて、かたられたのです。こんなことって、かつて、ないことでした。わたくしは、かつ、なき、かつ、とき、かつ、さげんで、わたくしを、みいだしたものです。それまで、わたくしは、そういうことは、説教の場合、醜態だとかんがえていたものです。しかし、わたくしは、歓喜と名状しがたい感情におぼれていたのです。¹⁵⁾

ところで、これほどのできごとが、ひとびとの関心をそそめぬはずはあるまい。ひとびとは、よると、さむと、このことについてのはなしで、もちきりであつた。そう、かんがえても、よいであろう。そう、かんがえても、すこしも、かんがえず、ごしとはなるまい。もし、それをいなむひとがあるなら、そのひとに、わたくしは、おなじ本の中から、さらに、つぎの会話を引いてしめすであろう。それは、ガスパー河から当時の交通状態で四日の行程にあるリンコルン州のディック河のハンギングフォークのほとり（in Lincoln County on the Hanging Fork of Dick's River）でかわされたものである。まづ、かたるのは、本編の女主人公のレベッカ・ファウラー（Rebecca Fowler）、相手はその妹のジャーニー（Jannie）。

——ランキンさんはプレスビテリアンを脱退してあたらしいひかり、(the new lights) にはいられたというはなしが
あつたよ。

——しってるわよ。……それはそうと、ローガン州 (Logan County) では、一体、なにがとおきているのかしら。おとう
さんが、それについて、なにか、おっしゃってるのを、きいたんですけれど……

——ああ、あそこでは、大きなリバイルがあつてのよ——聖礼典にね。先日ここを通過して行つたひとが、はなしてたわよ。こ
の夏、また、大きなミーチングをもとうと、しているんですって。そのひと、いつてたわ。とても信じられないほど大きなもの
だって。ひとびとは、靈感をうけて、あつまり、身をふるわし、しゃべり、おどり、わめくんですって。説教者たちは、いつて
るそうよ。この国でこれまでになかったほど偉大な霊のめぐめで、テネッシー全体、それに、ケンタッキーにも、ひろがって行
つてゐるって。そのひと、そう、いつて、いたわ。

——わたくしには、ばかりしく、きこえてよ。だって、あんな地方にどんな期待がもてて。悪党の巢窟 (Rogues Harbor) に
やないの。……

——何百人というひとびとが同時に靈感を受けているのを、みるのは、ちよとしたものね。説教は一日中おこなわれると、い
うことよ。そして、ひとびとは、近郷近在、いたるところから、あつまりてきて、あつまりのある四日のあいだ、ずっと、滞在
して、うなつたり、おどつたりするといふは、なしよ。それが、夜までつづくんですって。リチャード (Richard) も、行きたが
っているようよ。

——リチャードなら、そうでしょうね。リチャードも、かぶれてしまったのかも、しれないわね。

——まあ、そんなことないわ。リチャードは、とても、善良なプレスビテリアンですもの。

——ランキン牧師だって、そうだったわ。

——でも、リチャードはランキン牧師とは、ちがうわ。

——たいして、ちがいは、しないわ。かれ、とても、牧師の風があるわ。わたくしには、そう、みえるわ。¹⁶⁾

レベッカはガスパー河畔のリバイバル・ミーチングについて、それを見るのも、ちよつとしたものである、という。しかし、わたくしにとつては、それをうかがうのは、ちよつとしたものであるどころのはなしではない。それこそが当面の問題である。だから、わたくしは、それについて、さらに、くわしく、しりたい。いな、しらべねばならない。さいわい、レベッカをあやつる運命は、やがて、かの女を、そのおつとのリチャードとともに、ガスパー河畔のリバイバルのミーチングに参加させることになる。そして、かの女は、それについて、かたっている。そこで、わたくしは、それを、きくことに、しよう。かの女はかたる。

わたしたちがガスパー河のミーチングの場所についたときには、大群集が、すでに、あつまっていた。わたくしは、レキシントンのほかでは、まだ、このようにたくさんひとがあつまっているのを、みたことはなかった。荷馬車^{ワゴンズ}や二輪軽馬車^{ツェクル}が、周囲にたてこんで、かきうであつた。ひとびとは、あち、こち、から、きており、四日間のミーチングのために、地面にいたり・荷馬車の中にのべる・ねどこと、そのあいだをささえるだけのたべものを、用意していた。ワゴンやカートは、いづれも、それぞれ、ちいさなキャンプの中心になっていた。……

ひとが、あまりにも多かつたので、あたらしい説教の家には、はいりきれなかった。そこで、説教は戸外^{オウズ}でおこなわれることになった。四方からもつてきたまゝで、ブラットフォームが二つ、ひろばの両端にたてられた。これは、こどもづれの家族には便利であつた。こどもらを、ひろばのまわりに陣取つた荷馬車の中のベッドに、ねかせておくことが、できた。それで、ははおやたちは、こどもらが、そばで、心配がないことが、わかつていたので、

説教をききつづけることができた。

かの女たちが、まるでや荷馬車のはしに、しをにかけて、ちのみごをむねにだき、としかさの子にはトーモロコンバン (corn pone) を、さしだしたり、てわたしたり、しながら、注意だけは説教者にむけて、熱心に説教に耳をかたむけている光景が、随所にくりひろげられていた。

最初の説教は、その翌日の朝、はじまった。四人の説教者たちが、かわるがわる説教をした。それは終日ぶつとおしにおこなわれた。止午に、一回、ひとびとが、食事を取り、しばらく休息するために、中止があった。それから、また、説教がつづけられた。その日のおわりに、わたくしは、失望を感じた。それは、わたくしたちの教会における終日のあつまり (an all-day meeting) と、ほとんど、かわりがなかったからである。昂奮の兆はなかった。ゆうげのおりに、わたくしは、そのことを、いった。パーミラ (Perulla) が、わたくしに、「発作のおこるは、晩のミーティングだと、いうことです。きつと、今晚、おこることでしょう。」と、いった。

かの女のいったとおりであった。松のかがりびが、ともされ、東側のプラットフォームのそばに、おかれた。そのわけは、説教者は、晩は、その一方のプラットフォームだけで、かわるがわる説教したからである。夜に入り、暗黒が森林や牧場をおおい、松のかがりびが、あかあかと、ひとびとのかおをてらすと、説教者たちは、ふるいたたされたように、みうけられた。

はじめは、説教者たちは、いづれも、長い説教をしなかった。かなり、はやめに、つぎのものに席をゆづった。説教におとらぬほど、うたがうたわれた。説教者たちは、説教を、みじかく、きりあげて、うたに、くわわった。そのうたは、わたくしには、みみなれないもので、あった。教会の壮重な讃美歌にくらべると、ずっと、はやい調子

で、うたわれた。だが、ひとびとのうちには、きつと、すでにしつてゐるにちがいないものも、いた。なぜなら、それらのひとびとは、まづてましたというように、すぐに、いっしょに、うたいだしたからである。ひとびとは、うたいながら、ゆれうごいた。そして、手をたたいた。あるものは、ときどき、「ありがたやー」(Glory)と、さげんだ。しかし、わたくしたちが、ひとびとのかおに、期待と昂奮のいろをみたのは、ひるまは一度も祝教をしたことのないひとりの説教者が、たちあがつて、前面に歩をはこんだときのことであつた。これこそ、ひとびとが、その説教をきくためにあつてきた、めあてのひとつであつた。たしかに……かれらが、まぢうけていた・ひとに、ちがひなかつた。「あれは、たれですか？」と、わたくしは、パーミラに、ささやいた。わたくしたちは、わざと、ひとごみのはづれのところに、たちどまつていた。それは、よりよくみることができるとためであつた。

「テネッシーから来た兄弟の一人よ。……どちらの方かはしらないけれど……」

わたくしたちは、たつたままで、いた。群集が、いまや、たちあがつたからである。

そのおとこは、たけがたかく、やせていた。かおいろはくろく、まゆがこゆかつた。しばらく、かたくくちをむすんで、ひとびとをにらみつけていた。それから、銃をつきつけるようなかっこうに、うでをあげて、かれらにむけて、さし出した。そして、さげんだ。「おまえたちの運命はきまつてゐるぞ (You are doomed)」。そして、おまえたちをまつてゐるものは地獄の火だ。」群集の中からうめきごえがあがつた。かれらのなかの、どこかで、ひとりのおんなが、かなきりごえをあげた。「おまえたちの運命は、きまつてゐるぞー」と、かれは、くりかえした。かれのごえは、おもおもしろく、ゆたかであつた。そして、四辺の森林に、ひびきわたつた。……

かれが、どれだけながく、説教したか、わたくしは、おぼえてゐない。時間の感覚が、まつたく、なくなつて、

しまった。なぜかなれば、かれの最初のこゝと、から一五分しないうちに、われわれは、ランキンが、きつとみられる、と、約束したところのものを、みただけである。わたくしたちは、みた。ひとびとが、両手をあげ、ぐるぐる乱舞し、地上にたおれ、死んだように、じつとよこたわったのを。わたくしたちは、みた。かれらが、しかばねのように硬直したままで、はこび去られ、ふみつけられることのない場所に、よこたえられたのを。

わたくしたちは、みた。わたくしたちから、あまりとおくなくところに、たつていた、ひとりのおんなが、けいれんにとりつかれたのを。それは、かの女のあたまから、はじまった。まづ、くびが、びくびくと、けいれんをおこした。わたくしは、そのくびがおれるのではないかと、おもった。それから、それは、うでと手にひろがり、さらに、からだじゅうにおよび、しまいに、関節がばらばらになったような状態におちいった。かの女のそばに立っていたおとこ——わたくしは、かれをかの女のおつとだとおもった——が、かの女を、まわりの群集からまもるように、努力し、やっと、かの女を、ブラッドフォームと説教者の方へ、つれて行った。

わたくしたちは、みた。ひとびとが、わきたち、ゆるいテンポの、おどりを、はじめるのを。それは、ときに、速度をまし、しまいに、はげしく、ゆれうごいた。それから、わたくしたちには、ひとびとのしゃべる、おかしな・わけのわからない、こゑが、きこえはじめた。わたくしは、めんくらい、とぎまぎし、とほうにくれ、ふしぎなところで、ふしぎなめにあう、おもいがした。

リチャードが、ひしで、わたくしを、そつと、おして、いった。「はしの方をまわつて、まえの方へ行こう。このようにさわがしくては、説教者のこゑがきこえない。」……

わたくしたちは、ブラッドフォームのちかくに、場所をみいだした。たぐさんのひとびとが、たおれてしまった

ので、あきまができていたのである。プラットフォームのすぐまゝのところ、まゝにできていたひとびとが、ふみあらされたくさのなかに、ひざまづいて、なき・わめき・おどりながら、いのつたり、いのつてもらったりしていた。説教者はそのひとびとをみおろしながら、懸命に、あがめ、うたい、いのつていた。¹⁷⁾

まことに、みごとに描写である。リバイバルのミーチングをまのあたりにするおもしろいがあるものは、わたくしだけにとどまらないであらう。いかに多くのひとびとが、いかに昂奮のうづにまきこまれたかは、もはや、想像にたくなところであらう。しかし、ついでだから、レベッカとリチャードの夫妻の反応をうかがってみよう。

リチャードはこのムードにまきこまれてしまふ。プラットフォームのそばにでてきたかれは、やがて、みをした。夢中になって、みとれ、ききほれる。説教者のことばがかれのこころにくいといふと、かおいろがかわる。

「かれにはちからがある。ほんとに、ちからがある」と、つぶやく。それから、突然、まゝにすすむ。そして、「いのつてもらいに行く」といって、プラットフォームのまゝでひざまづいてゐるひとびとの方に行く。そして、ひざまづいて、熱心にいのりつづける。あせが、かおにながれる。くちびるがうごく。ながいふるえがかれのからだをはしる。そして、バッテリーと、まゝにたおれる。しかし、その夜は、それ以上の験は、リチャードには、あらわれなかつた。ついに、非常につかれきつて、キャンプにかえる。そして、とこにつくとき、「あかんぼうのように、ぐにやぐにやになった。ちからがぬけてしまった。そんな気がする」といふ。しかし、最後の四日目の晩のミーチングでは、レベッカは、ふだん、きわめて、しづかで、まじめな、かの女のおつとが、はしりまわり、けいれんし、ぐるぐるまわるひとになりおわり、わらい、なき、歓喜を満面にたたえて、わけのわからぬさけびをはりあげるのを見る。¹⁸⁾かくて、かれは、このリバイバル・ムーブメントの中にいりこむ。そして、ついに、シェーカーズに帰依する。

ことになるのである。

だが、レベッカは、ちがう。つれのバーミラから「この光景をみて、どうおもうか」と、とわれて、「わたしには、わからない」と、こたえる。バーミラが、「靈感のはたらきということだが」と、いう。しかしかの女は、^{メビウス}「靈感」のはたらきなどしらない。かの女はものごころのつかぬうちに両親に洗礼をうけさせられ、聖約の子 (a child of the covenant) であると信ずるようになだてられた。かの女は、神のさだめときよめ (predestination and sanctification) によって、じぶんが、えらびつくわれるもの一人である、ということを知り、うたがったことがない。スピリットによってうごかされるということは、かの女のおもいもつかぬところであつた。しかし、ここで、かの女はうたがう。いまでもおしえられてきたことは、すべて、あやまりではなからうか？ ランキン氏は、じぶんのあやまりがわかつた、と、いったではないか？ そして、かれは牧師ではないか？ かくて、かの女は、すこし、不安をおぼえる。¹⁹⁾しかし、けっきょく、かの女は、おつとにしたがつて、ガスパー河畔にうつり住む。それをきいて、かの女の妹のジャーニーが母へ手紙を書く、そして、「かれらは、気がくるうたのではないか」とたづねる。また、別の手紙では、「国中を風靡しているリバイバルズの波にのまれるものが、すぐ・じぶんの感情におぼれる・無智蒙昧のやからであることは、知性のあるひとなら、だれでもしっているところだ」という。それに對して、かの女は「もちろん、それは感情的かも知らない。しかし、真実の宗教の中に感情が存在する余地がないと、だれがいうことができるか」と反撥を感ずる。かの女は、²⁰⁾やがて、シェーカー・ブリッジの住人となる。しかし、後、おつととわかれ、シェーカー・ブリッジをたちさる。

以上、われわれは、西・南部におけるいわゆるリバイバル・ムーブメントをうかがつた。うかがえば、うかがう

ほど、わたくしは、それが、すくなくともそのあつまりのシーンにおいてみるかぎり、シェーカーズのそれに酷似するところあることを、みとめざるを得ない。いな、以上のごときシーンをみていると、わたくしは、シェーカーズのそれをみているかのごとき錯覚をすら、おぼえないわけにはいかない。そして、そのような錯覚をおぼえるのは、ひとりわたくしのみでは、あるまい、と、おもうが、どうであらうか。

もちろん、このような、事情が、東部地方につたわらぬはずはない。それはシェーカーズの耳にもはいったはずである。そして、それがシェーカーズの耳にはいるとき、かれらが、それに乗じて、そこに、進出してくることは、あやしむをもちいないところであらう。はたして、かれらは進出してきた。

では、かれらはいかに進出してきたか。

かれらは、まづ、布教師^{ミッショナリーズ}を派遣した。それは、さきにも、ふれたところである。しかし、われわれは、ここで、われわれのさきにあげた資料によつて、さらに、すこしく、たちいつて、それを、うかがつてみよう。われわれのヒロイン、レベッカは、このうべている。

「かれらは、やつてきた。……一八〇七年の一〇月に。わたくしは、その日を、おぼえている。あれは、その月の一七日であつた。秋ではこれ以上よい日はないというほどよい日であつた。太陽はあたたかく、あざやかに、空気は澄み、かつ、すがすがしかった。」ちようと、かの女は洗濯をしていた。そこへ三人のよそものがきた。それが、シェーカーズのミッショナリーズであつたのである。イサカル・ペート、リチャード・マクネマール (Richard McNemar) およびマッシー・ハウストン (Mathew Houston) の三人である。* かれらは、われわれには、すでに、おなじみの、牧師ランキンの、家をたづねる。そして、あつまりのために、家をかりたいもうしこむ。ラ

ンキン牧師は、はじめ、ちよつと、ためらう。しかし、ジョン・スロース(John Sloos)というものが、じぶんの家を提供する。そして、その翌日、あつまりがもたれる。そこで、マクネマールがシェーカーリズムを説く。レベッカも、ランキン、リチャードとともに、それをきく。そして、それについて、こういう。

わたくしたちが、その夜きいたものは、ふしぎなおつげであつた。リチャード・マクネマールが、はなしをしたが、わたくしは、うまれてからこのかた、これほどの雄弁家をみたことがない。かれの態度はきもちがよかつた。しかしかれは學者であつた。そして、大衆にはなじかけるこつを、よく、ころえていた。かれには、あなたがたをひきつけるなにかがあつた。あなたがたは、しづかにすわつて、かれにのみみをかたむけ、一語をもききもらすまいとする……²²⁾

それでは、マクネマールは、その夜いかなることをはなしたか。そのはなしの内容は、どういうことがらであつたか。レベッカは、ことばを、つづける。

かれは、わたくしたちに、ビリーバースについて、また、かれらの教祖フザンのマザー・アンについて、かたつた。かれは、かの女が、その、いまだ、わかかりし日に、イングランドにおいて、いかに、靈火を感じたか、また、いかに、迫害をかうむつたか、その迫害を、いかに、あだかも、かの女と迫害者の間に神の愛が介在したかのごとく、無事に、きりぬけたか、について、かたつた。そして、かの女が牢獄にあつて、いかに、あたらしい信仰に入るべきかすかずのヴィジョンをみ、啓示をうけたかを……²³⁾

かの女のことばは、なおつづく。しかし、それによつて、しりうることは、その夜、マ・ネマールがかたつたことは、要するに、すべてマザー・アン一代の事蹟であるということである。それなら、それは、われわれのすでにみたところに、ほかならない。したがつて、ここに、くりかえす要はあるまい。だから、わたくしは、さきに、す

すむであらう。

さて、これを、か、わ、き、り、と、し、て、か、れ、ら、は、毎、夜、あ、つ、ま、り、を、も、つ、た。た、れ、か、の、家、が、あ、つ、ま、り、の、家、に、あ、て、ら、れ、た。そして、ひとびとは、そこに、行、つ、た。そして、そこで、説、教、を、き、い、た。そして、奇、妙、な、運、動、エリサイヤイゼスがおこなわれた。それは、手と腕をさかんにふりながら、前後におどるものである。そう、レベッカはいっている。この、からだをふる、わ、ず、運、動、を、説、明、す、る、の、に、か、れ、ら、は、聖、書、を、引、用、し、て、い、つ、た。「万軍のエホバかくいひ給う、われいま一度^{ひとたび}しばらくありてわれ天と地と海と陸とを震動^{ふる}はん、又われ万国を震動^{ふる}はん」と。そして、マクネマルは、い、つ、た。「つ、みとあ、や、ま、り、を、ふ、る、い、お、と、せ、す、べ、て、の、あ、し、き、な、ら、い、を、ふ、る、い、さ、れ」と。かれが、そう、い、つ、て、両、手、を、ふ、り、お、ろ、し、た、と、き、レベッカは、あ、や、ま、り、が、か、れ、の、か、ら、だ、か、ら、ふ、る、い、お、と、さ、れ、て、行、く、の、が、み、え、る、よ、う、な、氣、が、し、た、と、い、つ、て、い、る。²⁴⁾

それから、また、かれは、ランキンスの、い、に、こ、た、え、て、シエールカリズムの根本教理を説いて四原理をあげる。いわく、ざ、ん、げ、、い、わ、く、、独、身、、い、わ、く、、遁、世、、い、わ、く、、共、産、 (confession of sin, celibacy, withdrawal from the world, and common ownership of property.)²⁵⁾

ただし、これは、さきに、たびたび、ふれたように、ルーシイの主宰した時代に確立したものである。そして、それは、われわれは、すでに、しばしばいっただように、いづれ、項をあらためて、うかがうはずである。だから、ここでは、それ以上、この点について、たちいらないであらう。ただ、は、な、し、の、必要上、しるすにとどめたのにすぎない。「きくわたくしたちは」と、レベッカは、い、つ、て、い、る。「夫婦子供家族ぐるみであつまった。そして、あつげにとられて、きいていた。」²⁶⁾と。

最初に帰依したのはジョン・マコンブ (John McComb) であった。²⁷⁾

やがて、リチャード、夫妻も、ランキンおよび、その他の二名とともに、それにつづいた。²⁸⁾

ミッシュナリーズは一月滞在した。その間に帰依するものは、二〇人にのぼった。²⁹⁾ 当分の間は、ランキンがかれらの主宰者とさだめられた。しかし、本部から、ときどき、たれかがきて、説教をし、面倒をみるはづであった。³⁰⁾

やがて、オハイオのユニオン・ビルッジ (Union Village in Ohio) のデビッド・ダロー (David Darrow) というひとが、西部の総帥となった。かれは、ニューヨーク州ニューレバノンの本山 (Mother Colony) から派遣されたものである。³¹⁾ そして、さらに数名が、かれの補助におくられてきた。³²⁾ ブラザー・ベンジャミンは、その中の一人である。かれがついたのは、一八〇九年五月のことである。そして、かれの存在は、この地方の信徒の団結強化に大きなはたらきをする。かれは、学識と実行力をかねそなえていた。そして、シェーカーのむらづくりをはじめめる。³³⁾ そして、二つのコミュニティーがケンタッキーにできあがる。一つは、ショーン・ランのハロッドバーグのちかくに (near Harrodsburg on Shawnee Run)、できた。これはプレザント・ヒルと、よばれた。いま一つは、ボーリング・グリーンの南西 (south west of Bowling Green)、ガスバー河畔に、できた。その名をサウス・ユニオン (South Union) と、する。³⁴⁾

ついでながら、わたくしが、ここに、あげた、「ビリーバーズ」一巻は、実に、「このサウス・ユニオンを舞台とするものがたりである」³⁵⁾。したがって、ここに引いたシェーカーズの南・西部への進出に関する記録は、ほとんど、サウス・ユニオンに関するものにはかならない、と、いうことになる。「それでは」と、ひとは、いかも、しれない。「シェーカーズの西・南部への進出をうかがうといいながら、実は、その一面面をうかがったにすぎな

いのではないか。」と。そういうそしりを、まぬがれるわけにゆかぬであらう。そういわれれば、そのとおりである。わたくしは、あまんじて、そのそしりを受けよう。しかしながら、わたくしは、かんがえる。この場合、一局面をくわしくなめることは、やがて、全局面を想察せしむるに、たることになるであらう、と。そう、かんがえることは、ゆるされうところであらう。そして、それがゆるされるなら、シェーカーズの西・南部えの進出をうかがうとするわたくしの目的は、ここに、達せられたということに、なるでも、あらう。そう、いっても、よからう。すくなくとも、わたくしは、そう、おもう。

それにしても、それでは、それらのコンミニチーズはいかになりつつたか。そして、いかなる運命がその前途によこたわつていたか。それが問題とならう。しかしながら、これらのコンミニチーズの運命は、そのなりたちときはなしては、あきらかにすることが、できない。そして、そのなりたちは、シェーカーズムの原理・秩序・組織のあらわれにほかならない。しかるに、シェーカーズムの原理・秩序・組織は、ルーシイの主宰した時代に確立したところに属する。そして、それをうかがうことは、しばらく、あとまわしにしておいたところである。そのことは、本項のはじめにも、いっておいたところのごとくである。だから、われわれは、つぎに、項をあらためて、シェーカーズの原理・秩序・組織をうかがうであらう。

ともかく、かくて、わたくしは、シェーカーズの西・南部えの進出を叙するわたくしのペンを、ここにおく。

* 本部より西・南部へ派遣された三人のミッシェナリーズの中の二人が、さきに引いた「年代記」と、ここに引く「ビリーバーズ」とでは、ことなっている。おもうに、西部へは三人派遣せられたが、かれらは、まづ、オハイオにおいて、ユニオン・ビルジをかため、それより、さらに、ガスパー河畔へ、進出した。そのとき、人がいれかわつたものであらうか。そうすれ

は、「年代記」も「トリートス」も、いづれも、まづがては、いないことになる。あつても、ペンシヤミン・ヤンクスがら
の地へ派遣されてゐることは、「トリートス」に見えること、後に引くところのことである。

- (1) 拙稿、シエーカーズ、七、本誌・第九二巻・第四号、(昭和三八・一一〇)
- (2) 同上、六、同上。
- (3) *The Columbia Encyclopedia*, "revival".
- (4) *Testimony of Christ's Second Appearing*, p. 630.
- (5) ②をみよ。
- (6) *Testimony of Christ's Second Appearing*, p. 630.
- (7) ②をみよ。
- (8) Everett Webber, *Escape to Utopia*, p. 56.
- (9) Janice Holt Giles, *The Believers*, Houghton Mifflin Company, Boston, The Riverside Press, Cambridge, 1957.
- (10) *ibid.*, pp. vii-viii.
- (11) 本誌・本号・本節。
- (12) Janice Holt Giles, *ibid.*, p. 104.
- (13) *The Testimony of Christ's Second Appearing*, pp. vi, xiv.
- (14) Janice Holt Giles, *ibid.*, p. vii.
- (15) *ibid.*, p. 47.
- (16) *ibid.*, p. 39.
- (17) *ibid.*, p.p. 50-58.
- (18) *ibid.*, p.p. 60-61.
- (19) *ibid.*, p.p. 58-60.
- (20) *ibid.*, p. 80.
- (21) *ibid.*, p. 85.
- (22) *ibid.*
- (23) *ibid.*,
- (24) *ibid.*, p.p. 86-87.

- (32) *ibid.*, p. 88.
 (33) *ibid.*, p. 91.
 (34) *ibid.*, p. 97.
 (35) *ibid.*, p. 104.
 (36) *ibid.*
 (37) *ibid.*
 (38) *ibid.*
 (39) *ibid.*, p. 89.
 (40) *ibid.*, p. 96.
 (41) *ibid.*, p. 98.
 (42) *ibid.*
 (43) *ibid.*, p. vii.